下仁田町青少年健全育成大会を開催しました

下中吹奏楽部

下高吹奏楽部

下高ダンス愛好会

少年の主張発表

7月23日（土）下仁田町文化ホールに於いて、2回目となる下仁田町青少年健全育成大会を開催しました。この大会は、町民の青少年健全育成に対する一層の意識の高揚と、家庭・学校・地域が一体となった町民総ぐるみの青少年健全育成運動を推進するための大会です。

まず第1部オープニングアトラクションとして、下仁田中学校・下仁田高等学校吹奏楽部による演奏、下仁田高等学校ダンス愛好会によるダンスを行いました。このアトラクションは観客を楽しませるだけではなく、各学校と町との連携、生徒たちへの活躍する場の提供、また生徒の活動の場を地域へと広げる契機となっています。

第2部の式典では、今回から青少年に関する表彰として「下仁田町青少年健全育成表彰」を行いました。この表彰の主旨は「活躍する青少年や育成する大人たちを表彰し、その姿を広く町民に周知・賞賛をお願いするものです。（次ページで受賞者紹介）

続いて昨年に続き、小・中学生を対象に募集した「少年の日」「家庭の日」普及啓発作品コンクール入賞者（次ページで紹介）への表彰を行った後、少年の主張下仁田町大会で最優秀となった下仁田中学校2年下山楓香さんに発表をしていただき、青少年の思いを感じました。また、司会進行を下仁田高等学校の生徒が行い、皆それぞれが役割を立派に果たしました。

第3部では、下仁田小学校アンケートで人気№1となったアニメ映画「ミニオンズ」を上映しました。この映画上映会は、親と子で共通のテーマについて語り合う機会を提供するという趣旨で子ども向けの映画を毎年上映しており、どなたでも無料で鑑賞できます。次の機会も多くの方のご来場をお待ちしております。

最後に、入場者の皆様からもたくさんのご意見をいただきましたので一部を紹介します。「中学生・高校生が頑張っている姿を見ると感動する」「もっと宣伝してたくさんの方に見ていただきたい」「子どもたちの元気に活動する姿に感激した」「少年の主張が前回よりも大変すばらしかった」「少年の主張に心を打たれた」「中・高生のJRCの活動を知ることが出来てうれしく思った」「オープニングが良かった」「高校生の司会・アトラクションが大会を盛り上げている。下仁田高校の今後の活躍に期待」などがありました。今後ともに生徒たちにも直接励ましの声などをかけていただければありがたいと思います。また、来年は更に多くの方に参加していただけるよう、皆様のご協力をお願いいたします。

青少年賞個人

青少年賞団体

育成功労賞個人

育成功労賞団体

下仁田町青少年健全育成表彰　受賞者（敬称略）

区分		氏名	受賞の理由
青少年賞	個人	佐藤　太星	平成27年度甘楽富岡地区英語弁論大会で優勝し、県大会に出場した。
		堀口　結	平成27年度上毛かるた県大会小学校高学年団体の部に旭町子ども会で出場し、3位に入賞した。
		小林　京平	
		堀越　一代	
		茂木　杏美	
	団体	下仁田中学校JRC委員会 委員長 黒澤　佳佑	4月14日に発生した熊本地震に際し、中学校での募金活動により多くの募金が集まり、町へ届け、被災地へ送ってもらった。
		下仁田高等学校JRC部 部長 新井　裕太	下仁田高等学校JRC部は新井部長を中心に、ボランティア活動で社会奉仕、環境美化に協力している。
青少年健全育成功労賞	個人	堀口　好一	旭町子ども会を地域で熱心に指導、育成しており、現在の強い旭町子ども会を作り上げた一端を担う。
		神保　守	昭和61年から現在までの30年間、下仁田町子ども会育成団体連絡協議会の会長として活躍している。
		佐藤　勇	平成2年から平成14年までの12年間、下仁田町青少年育成推進員連絡協議会長を務めた。青少推として昭和56年から平成14年までの21年間活動し、青少年育成に尽力した。
	団体	旭町子ども会 代表 茂木　美由紀	かるた活動を主とした子ども会活動を通じて地域コミュニティーを形成し、青少年健全育成に寄与している。
		読み聞かせボランティア 代表 金子　和子	長年にわたり下仁田小学校児童のため、朝の活動の時間に読み聞かせを行っている。
		下仁田町更生保護女性会 会長 里見　悦子	長年にわたり下仁田小学校児童のため、下校時に一緒に歩くことで見守りを行い、児童の安全を確保している。
		下仁田町民生児童委員会 会長 蟻坂　是心	平成23年から下仁田中学校を訪問し、授業を見たり、校内を巡視したりしながら生徒たちへの声掛けや、気づいたことを学校へ報告または助言しており、教育活動に活かされている。

「少年の日」「家庭の日」普及啓発作品コンクール　入賞者（敬称略）

区分			氏名		受賞の理由
「少年の日」「家庭の日」普及啓発作品コンクール（◎最優秀賞）	標語	小学校低学年	◎佐藤　大樹	（1年）	今日のこと　いっぱい話して　家族の時間
			堀越　亜美	（3年）	届いてる? メールじゃなくて 親の声
			田村　悠人	（2年）	ネットでは　「なかったことに」は　通じない
			佐藤　千尋	（3年）	会話しよう スマホじゃなくて 言葉でね
			矢越　華凰	（1年）	「おいしいね」　あったかごはんに　あったかかぞく
		小学校高学年	◎岩井大乃介	（4年）	まず話そう　ネットじゃなくて　家族にね
			神戸　南翔	（4年）	かあちゃんに　ギュウってされたら　やる気出る
			神戸　光葉	（5年）	スマートフォン　歩きながらは　事故のもと
			佐藤奏太朗	（6年）	考えて　いわれてやなこと　うれしいこと
			土谷　智也	（6年）	やめようよ 悪口書き込み 消せない過去
		中学生	◎青木　愛佳	（2年）	あいさつは　絆を深める　まほうの言葉
			南雲　健太	（1年）	友達と 会話でつくる 心のきずな
			榊原　有亜	（3年）	「おはよう」は 家族みんなの 愛言葉
			髙田　紅音	（3年）	ちょっと待って　書きこむまえに　再確認
			山田　莉子	（2年）	家族との　日ごろの会話で　支え合い
	ポスター	中学生	◎吉田　悠作	（2年）	スマートフォンは正しく使おう
			松原　明音	（2年）	ボランティア活動
			小井土　桜	（2年）	明るく元気にあいさつ
			岡田　采弓	（1年）	町内美化活動

平成27年度人権尊重を考えるコンクール優秀作品

※掲載者の学校・学年は平成27年度のものです

優秀賞

宗教サミットに参加して

下仁田中学校　二年　蟻坂　崇仁

僕は四年前、肌の色で差別を受けていた人について書かれた本の感想文を書いたことを思い出しました。その感想文にはそのときの本を読んで衝撃を受けた自分の思いが書かれていました。それと「人種の差別をしないで世界の宗教を理解できるような人になりたい。」と書かれていました。今の自分はどうだろうとふりかえってみると、

「人種の差別をしないで世界の宗教を理解するといっても、なかなか人種差別の実体や、世界の宗教を直接見ることが無いから、批判的になるなっていっても分からないな。」と思いました。

しかし二週間前、僕に世界の宗教を直接見る機会が訪れました。僕はこの夏、滋賀県大津市にある比叡山で行なわれた世界宗教サミットに参加しました。仏教やキリスト教、イスラム教などの代表者が世界中から集まり、それぞれ世界が平和になるためには、宗教者としてどうするべきかということをテーマに発表していました。全ての宗教の代表者の発表が僕の平和への思いや考えを変えさせるものでした。

僕は世界の宗教のある代表者の言葉が気になっていました。

「そもそも平和とは、単に戦争がないことではなく、人間どうしの睦み合う融和の状態、人類共同体の実現という。およそ正義や慈悲のないところに平和はない。かかる平和こそ全ての宗教者によって誠実に希求されなくてはならない。」

という言葉が僕の心と頭から離れませんでした。僕はこの言葉を聞いて、

「確かに言われてみるとそんな気がするかなぁ。」と独り言を言ってしまいました。けれど、言われてみると、本当に戦争がないことだけが平和だとは言えないと思ったのです。なぜなら、アフリカやその他の地域で飢餓に苦しんでいる多くの人々がいるからです。生まれて間もない赤ちゃんが死んでしまったり、僕と同じ年齢なのに驚くほどにやせほそっている画像を社会の教科書で見たことがありました。戦争がなくても、食べる物が無くて苦しんでいるたくさんの人がいるのも、平和でないことのひとつだと思います。

また、地球上に生きているさまざまな人種の人とともに生きて、尊重、共感し合ったり励し合い、助け合い、睦み合うことができていないことも平和でないと僕は思います。人種差別や奴隷などの世界的な問題と一緒で、友達とのケンカや隣人とのトラブル、いじめなどの、自分の身の周りで起きている問題も平和ではないと僕は思います。逆に、自分の身の周りで起きている問題を解決してゆけば身の周りから平和を取りもどせると僕は考えました。

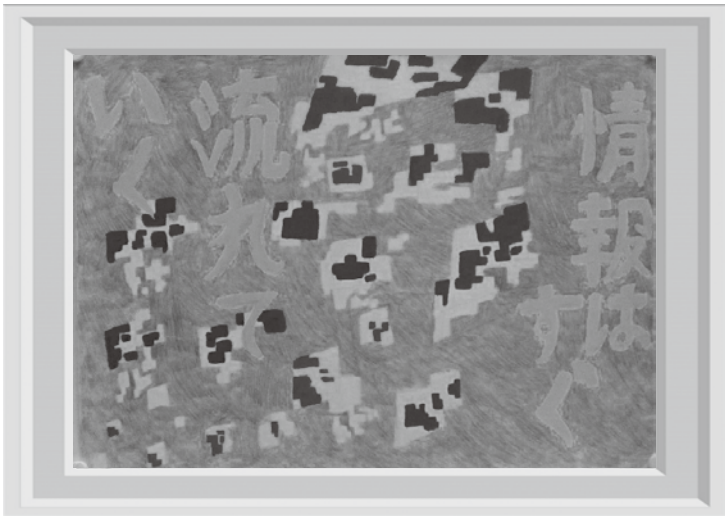
僕は世界宗教サミットに参加して、改めて平和について考え直すことができました。また、各宗教の代表者の発表を聞くことができて世界宗教サミットに参加してよかったと思いました。なぜなら代表者の発表の中の、

「人類のため、平和のために、みなさん一人一人が友情の手をお互いに差し伸べ、平和な世界と人間らしさのために働くことを望もうではありませんか。」

という言葉が、僕の平和に対する思いを引き起こしてくれたからです。そしていつか、自分も誰かの平和への思いを引き起こせるような人になりたいです。

優秀賞

下仁田中学校　1年
田中　龍一



平成27年度人権尊重を考えるコンクール優秀作品

※掲載者の学校・学年は平成27年度のものです

優秀賞

世界に通じる優しい心の日本人に

～エルトゥールル号の話を聞いて～

下仁田小学校　六年　田村　愛里

日本とトルコとの間にあった出来事を聞いて、私は、外国の人とこんなことがあったなんて知りませんでした。約百三十年前にエルトゥールル号が沈没したときに、日本人がトルコの人々を助けてあげる姿を知り、日本人は外国の人まで、こんなに自分のことを後回しにしてまで、助けてあげるなんてすごいと思いました。私は、日本人だけど、たぶんこんなには出来ないと思います。樫野の人たちは、ご飯も自分たちでさえあまり食べられないのに、そのトルコの人達にいっぱい食べさせてあげていたので、すごいなと思いました。沈没して、亡くなった人たちの家族には、その人の遺体を引き上げて、丁重に葬ったので、その家族の人もすごく良かったと思いました。この話を聞いて、私だったら、ご飯は、自分の分も食べられるようにし、こんなに丁重に返してあげられなかったと思います。私は、この人たちみたいに、だれにでも優しくして親切にしたいと思いました。

イラン・イラク戦争があった時、多くの日本人がイランにいました。イラクの人が「今から四十八時間後に、イランの上空を飛ぶすべての飛行機をうち落とす」と言った時、私は、外国の人と日本人がみんなで避難すると思っていました。ところが、多くの外国の人は避難できましたが、日本人はなかなか避難できませんでした。その時、トルコの飛行機が飛んできて、日本人みんなを乗せて成田まで飛んでいきました。私は、あの時トルコの人々を助けてあげたから、こんどは助けてくれたのかなと思いました。そしたら本当にそうだったのです。あの時のことをおぼえていて日本人たちを助けてくれました。トルコ人たちも日本人のためなら、といってゆずってくれたのです。私は、あの時トルコの人々を助けなかったら、助けてくれなかったのだと思い、トルコの人々を助けてあげて良かったと思いました。

私は、今回、この「エルトゥールル号」と「イラン・イラク戦争」の話をはじめて聞いたけれど、日本人とトルコの人々は、これからも助けてあげられると思いました。私は、もし外国でけがをしてしまい、だれかが助けてくれたら、私も、その人がこまっていたら言葉が通じなくても少しでも力になってあげたいです。どこの国の人でも、優しく接してあげたいです。特に、トルコの人達には、戦争の時のことを思い出して、助けてあげたいです。この話を自分の中でしっかり忘れないように、時には思い出して振り返りたいと思います。

最後に、もう一度、日本人のすごいところとトルコの人々のすごいところを書きます。

日本人は、他の人のために、自分の服をぬいで、死んでしまいそうになっている人を温めてあげたり、食事も自分はなんとかなると思ってトルコの人達にあげたりしていたので、本当に樫野の人たちは、親切な人たちだなと思いました。トルコの人々も、恩返しとして日本人を助けてくれた心優しい人々で良かったと思いました。

私もその人に必要なことを考え、必要なら手を差し伸べるそんな大人になりたいです。

優秀賞

「だいじょうぶ？」　てをさしのべる　そのゆうき

下仁田小学校　1年　田村　奨

優秀賞

さかそうよ　みんなのこころに　えがおのはなを

下仁田小学校　1年　田村　慈音

優秀賞

ごめんなさい　いえるゆうきも　つよさのあかし

下仁田小学校　1年　吉田　雄悟